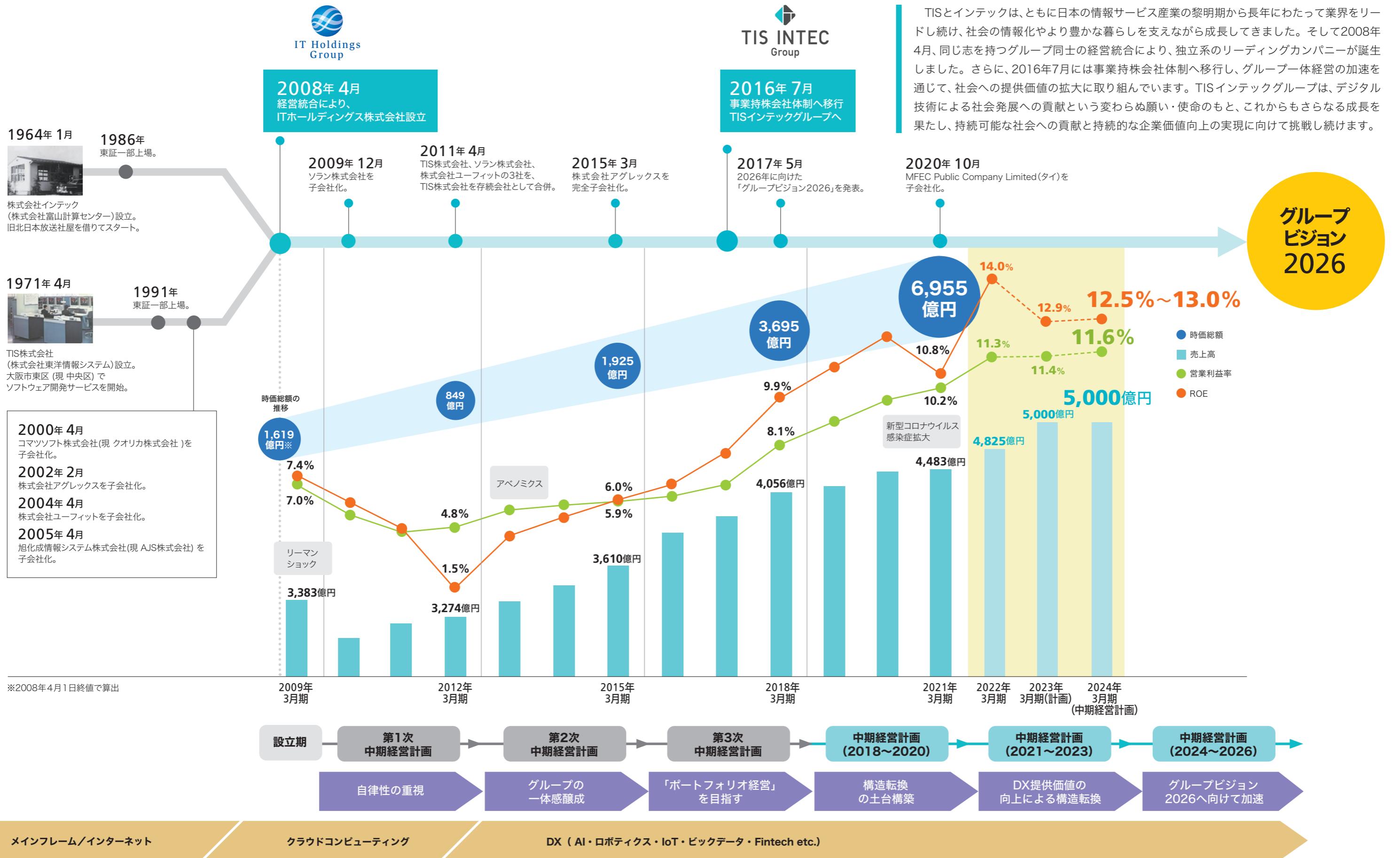


## TIS インテックグループの価値創造

- P.17 成長の軌跡
- P.19 価値創造プロセス
- P.21 価値創造の源泉・競争優位性
- P.23 サステナビリティ経営
- P.25 マテリアリティ
- P.27 ステークホルダーダイアログ

# 成長の軌跡

長年培ってきた先進技術・ノウハウを駆使して、新しい社会の活力を創造し、お客様と共に社会の期待を超え人々の幸せに貢献することを目指しています。





経営理念	<グループ基本理念「OUR PHILOSOPHY」>	(ミッション)ムーバーとして、未来の景色に鮮やかな彩りを	P.2
ビジョン	<グループビジョン2026> (2026年の企業像) <b>“Create Exciting Future”</b>	先進技術・ノウハウを駆使しビジネスの革新と市場創造を実現する	P.30

外部環境の変化 P.29

- 経営資本 P.21
- 財務資本
- 人的資本
- 製造資本
- 社会・関係資本
- 自然資本
- 知的資本

### マテリアリティ P.25

多様な人財が生き生きと活躍する社会を

イノベーション・共創を通じ、社会に豊かさを

高品質なサービスを通じ、社会に安心を

コーポレートガバナンスを高め、社会から信頼を

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

### 持続的成長のための経営戦略・施策

中期経営計画(2021-2023)

## Be a Digital Mover 2023 P.32

**TISインテックグループの事業活動**  
顧客のシステムライフサイクルやIT関連業務をあらゆる面からワンストップで最適サポート

オフリングサービス P.55

BPM P.56

金融IT P.57

産業IT P.58

広域ITソリューション P.59

信頼・期待に伴う成長機会の獲得

ステークホルダーエンゲージメントを通じた価値交換性の向上

デジタル技術を駆使した社会課題の解決

### 社会への提供価値

ITで、社会の願い叶えよう。

経済価値 (2022年3月期)

売上高 **4,825** 億円

営業利益 **547** 億円

ROE **14.0** %

### 社会価値

株主・投資家

- 持続的な株主価値の向上と株主還元
- 透明性の高い情報開示
- 建設的な対話の推進

お客様

- 最適なサービス提供
- ITの新たな利用形態の企画・提案
- ビジョンや戦略の実現をリード / サポート

ビジネスパートナー

- 新たな付加価値の共創
- 公正・透明・自由な競争、適正な取引
- 責任ある調達

従業員

- 成長と自己実現を果たせる機会の提供
- 安全で働きやすい環境の提供
- ダイバーシティ推進

地域・社会

- 高度情報化社会を支えるシステムの提供
- 安心・安全な暮らしの提供
- 環境負荷の低減

### 価値創造を支える基盤

**Environment**

低・脱炭素社会と循環型社会への寄与

P.81

**Social**

ステークホルダーエンゲージメントの持続的向上

P.85







**Governance**

社会からの信頼を高めるガバナンスの継続的な追求

P.61

## 価値創造の源泉・競争優位性

当社グループが長年にわたり培った資本が、持続的な企業価値向上には欠かすことのできない要素であり、価値創造の源泉となります。これら資本の充実と有効活用により、さらなる価値創造を目指します。

経営資本	インプット	集計範囲	特長	維持・強化のための取り組み
<b>財務資本</b> 	純資産額 <b>3,029億円</b> 自己資本比率 <b>61.5%</b> 信用格付け <b>A格/ポジティブ</b> 成長投資 <b>1,000億円(3カ年)</b>	<b>A</b> <b>A</b> <b>A</b> <b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安定的な財務基盤</li> <li>●良好な収益性・資本効率性</li> </ul>	投資強化による事業の構造転換推進/資本の適正化推進/ 政策保有株式の縮減 P49 副社長メッセージ②(財務投資戦略) 参照
<b>人的資本</b> 	連結従業員数 <b>21,709人</b> 管理職に占める女性従業員の比率 <b>10.3%</b> 1人当たり教育研修日数 <b>13.3日</b> 社員意識調査結果 <sup>※1</sup> <b>51%</b>	<b>A</b> <b>C</b> <b>C</b> <b>C</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「ムーバー」として活躍する多様な人材</li> <li>●持続可能なエンゲージメント</li> </ul>	エンゲージメント強化/ダイバーシティ&インクルージョンの推進/多様な人材の活躍を支援/健康経営/働き方改革/戦略的な育成と教育投資 P85 従業員とともに 参照
<b>製造資本</b> 	国内全域に広がる事業拠点 ASEANを中心とした海外拠点網 <b>約160カ所</b> <b>10カ国</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業継続を前提としたアウトソーシング拠点</li> </ul>	環境変化やお客様のニーズに応える高品質なサービスの開発
<b>社会・関係資本</b> 	顧客数 <b>約15,000社</b> 顧客満足度調査結果 <sup>※2</sup> <b>71.7%</b> ビジネスパートナー数 <b>約540社</b> ビジネスパートナー満足度調査結果 <sup>※3</sup> <b>81%</b> スタートアップとの連携(CVC出資) <b>43社</b>	<b>国内</b> <b>D</b> <b>D</b> <b>D</b> <b>D</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高い信頼関係による安定的なビジネス推進</li> </ul>	幅広いお客様の要望を吸い上げて開発やサービス提供に活かし、お客様とのつながりや満足度を強化 P87 お客様・ビジネスパートナーとともに 参照
<b>自然資本</b> 	エネルギー使用量(電気) <b>139,560MWh</b>	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境配慮型データセンターを通じた高いエネルギー効率</li> </ul>	再生可能エネルギー利用促進/データセンター統廃合 P81 地球環境とともに 参照
<b>知的資本</b> 	幅広いサービスメニュー(累計ソリューション数) <b>約500</b> グループ認知度(ビジネスパーソン) <b>63%</b> 独自の品質マネジメントシステム「Trinity」		<ul style="list-style-type: none"> <li>●高い技術力</li> <li>●豊富な経験・ノウハウ</li> <li>●品質、生産性、技術力の向上を重視</li> </ul>	開発ノウハウ・技術課題の共有/Tech Leadチーム活動/ ブランドの維持・強化

数値は2022年3月31日現在

※1:社員意識調査において、「総合的にみて、働きがいのある会社だといえる」の設問に肯定的に回答した社員の割合

※2:顧客満足度調査において、「かけがえのないビジネスパートナーである」とご回答いただいた割合

※3:ビジネスパートナー満足度調査において、「当社との取引および関係性に対して満足している」とご回答いただいた割合

集計範囲

A:TISインテックグループ(連結)

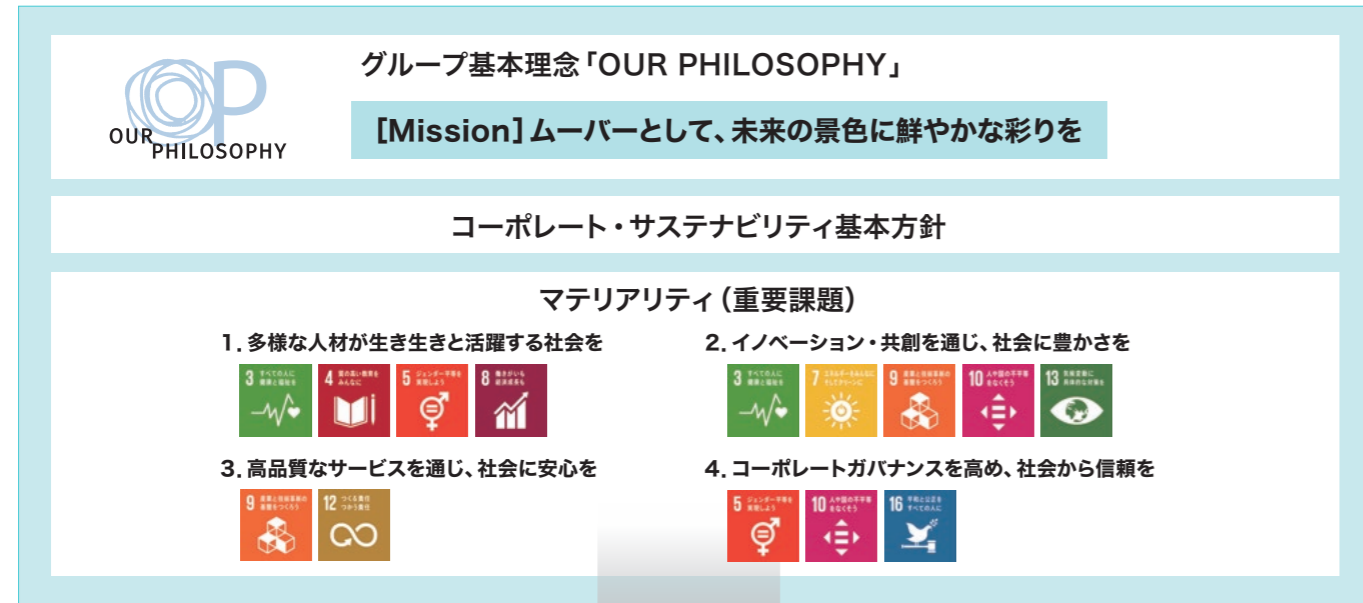
B:TIS、インテック、アグレックス、クオリカ、AJS、ソランピュア、TISシステムサービス、TISソリューションリンク、TIS東北、TISトータルサービス、TIS長野、TIS西日本、TIS北海道

C:TIS、インテック、アグレックス、クオリカ、AJS、TISシステムサービスおよびTISソリューションリンク

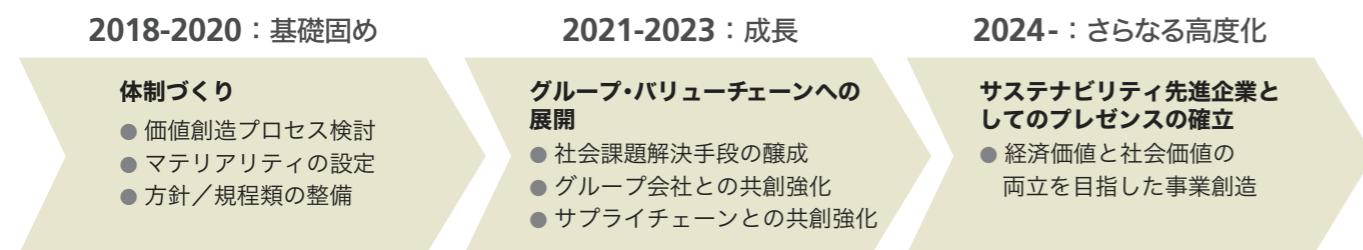
D:TIS

## サステナビリティ経営のさらなる深化に向けて

当社グループは、事業を通じた社会課題の解決による持続的な社会発展への貢献という企業が本来有する社会的責任に対する認識をより一層深め、コーポレートサステナビリティに関する取り組みをよりさらに強化します。



### ■当社グループのサステナビリティ推進活動の変遷



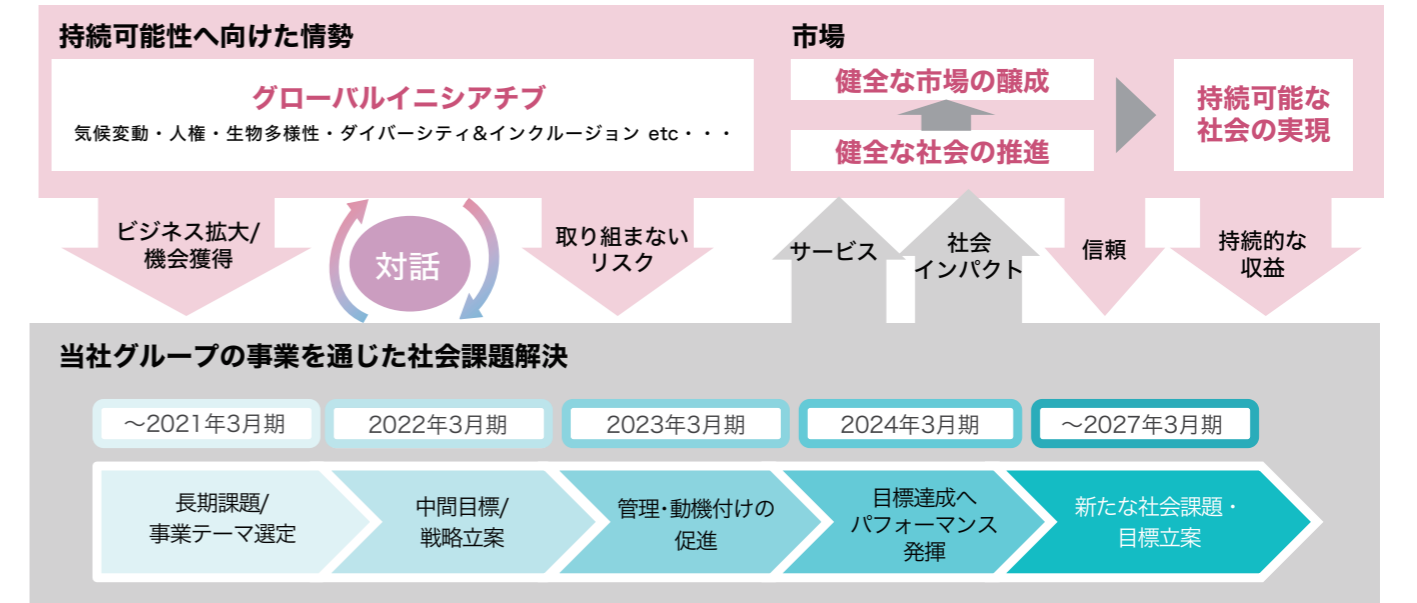
#### イニシアチブとの協働

当社グループは、サステナビリティ課題推進のためイニシアチブと協働しています。  
 当社グループは、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名し、2018年7月19日付で登録されました。  
 「国連グローバル・コンパクト」の定める「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10原則を実践することで、社員一人ひとりが引き続き社会的責任を果たし、持続可能な社会の発展に向けた取り組みを推進していきます。  
 当社グループが賛同しているその他のイニシアチブについては下記をご参照ください。  
<https://www.tis.co.jp/group/sustainability/initiatives/>



## 事業活動を通じた社会課題の解決

グローバルイニシアチブからのビジネス機会・リスクをもとに経済価値・社会価値の両方を創造するサービスを拡大し、持続可能な社会の実現と企業の持続可能性を高めていきます。



## 社会要請に対応した経営高度化

当社グループでは、財務資本だけでなく、非財務資本を効率的に運用し収益と社会への価値提供を持続的かつ最大化するため、ESGに着目し経営の質の向上を目指し様々な施策に取り組んでいます。

### ■現在特に注力している視点

#### ●データドリブン経営

グループの持つ全ての資本を効率的に収益につなげるため、財務資本同様、非財務情報に関する定量的なマネジメント体制を構築しています。グループの組織評価に非財務指標のKPIを導入し、ESG推進の動機付けを強化しています。

#### ●気候変動

昨今の気候変動は、ビジネス環境に多大な影響を及ぼしています。今後気候変動の緩和と適応により、社会に必要なとされるビジネスが変わっていく中、当社グループは当社のリスクと機会を分析し適切に対応することによって、ビジネスと社会の持続可能性を高める活動を推進しています。

#### ●人的資本

当社グループのビジネスモデルでは、「人材」を最も重要な資本と認識し、ビジネス革新や市場創造につながる社員一人ひとりの新たな挑戦を支援するために積極的な人材投資を進めています。また、パートナー企業のキャパシティビルディングに着手し、まずは健康経営の拡大に取り組み始めました。

#### ●人権

当社グループは、企業活動におけるステークホルダーへの負の影響の有無を常に意識し、より多くの人々と幸せを共有できる企業活動を目指しています。そのため「国連ビジネスと人権に関する指導原則」に即した人権デューデリジェンスを実施し、当社グループの事業活動のステークホルダーへの影響を可視化し、負の影響の救済に取り組めます。

#### ●地域社会への貢献

地理的・経済的な理由や、教育の不足によってデジタル技術が利用できていない人々を支援することによって、多くの人がデジタル技術の恩恵を享受できるような社会の実現を目指します。



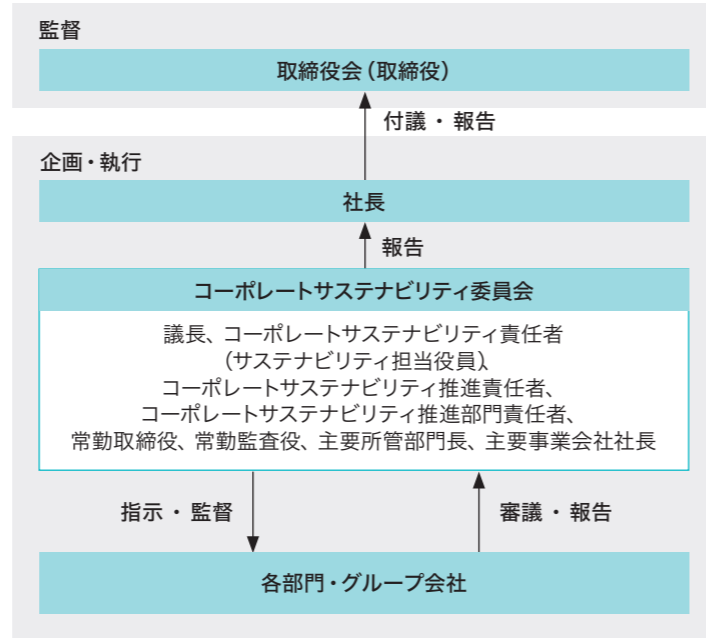
# マテリアリティ

## ■ サステナビリティ推進体制

当社グループ全体のコーポレートサステナビリティ活動推進に関して、コーポレートサステナビリティ委員会を中心にマネジメント体制を構築しています。

委員会の運営においては、コーポレートサステナビリティ責任者は当社グループのコーポレートサステナビリティ活動の監督を、コーポレートサステナビリティ推進責任者は執行の責任を担っています。

委員会では当社グループのサステナビリティ活動の企画推進やマテリアリティの推進（人材マネジメント、ステークホルダーエンゲージメント、環境保全、人権、品質管理、コーポレートガバナンス等）を行っています。事務局として、専任部署（コーポレートサステナビリティ推進室）を設置し、円滑に運用しています。



## ■ TISインテックグループのマテリアリティ（重要課題）

コーポレートサステナビリティに関する取り組みをより一層強化する一環として、2019年3月期に、ステークホルダーからの期待や社会への影響度、当社グループの強みを考慮したマテリアリティを特定し、優先して取り組んでいくテーマを明確化しました。

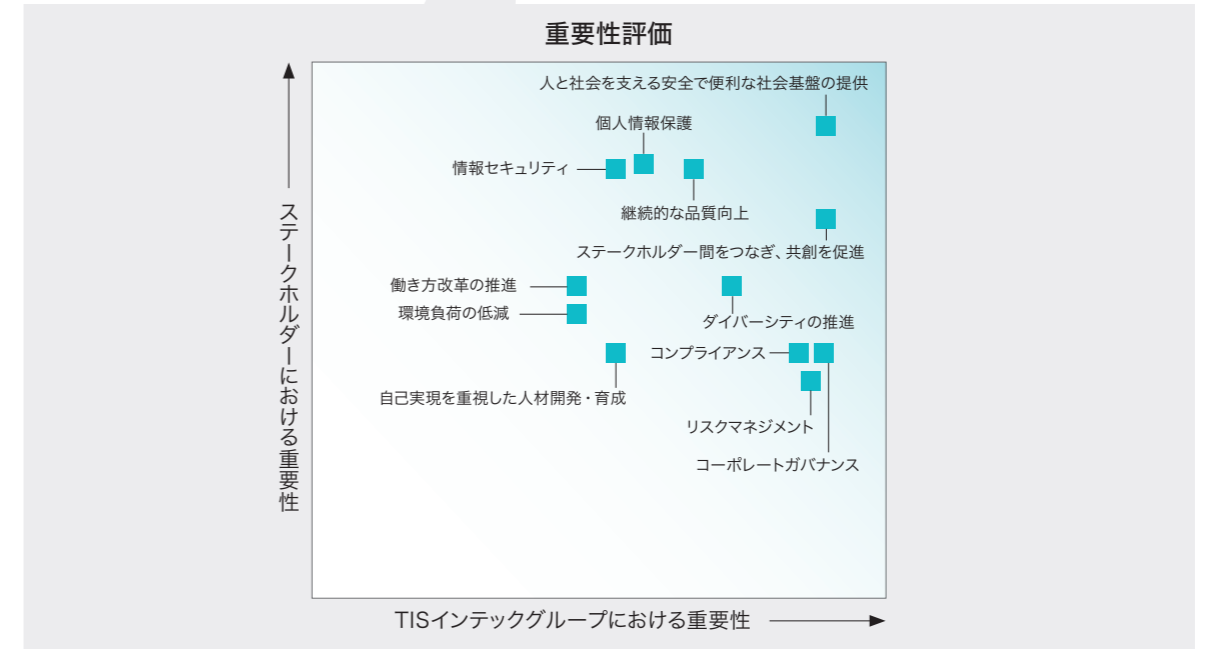
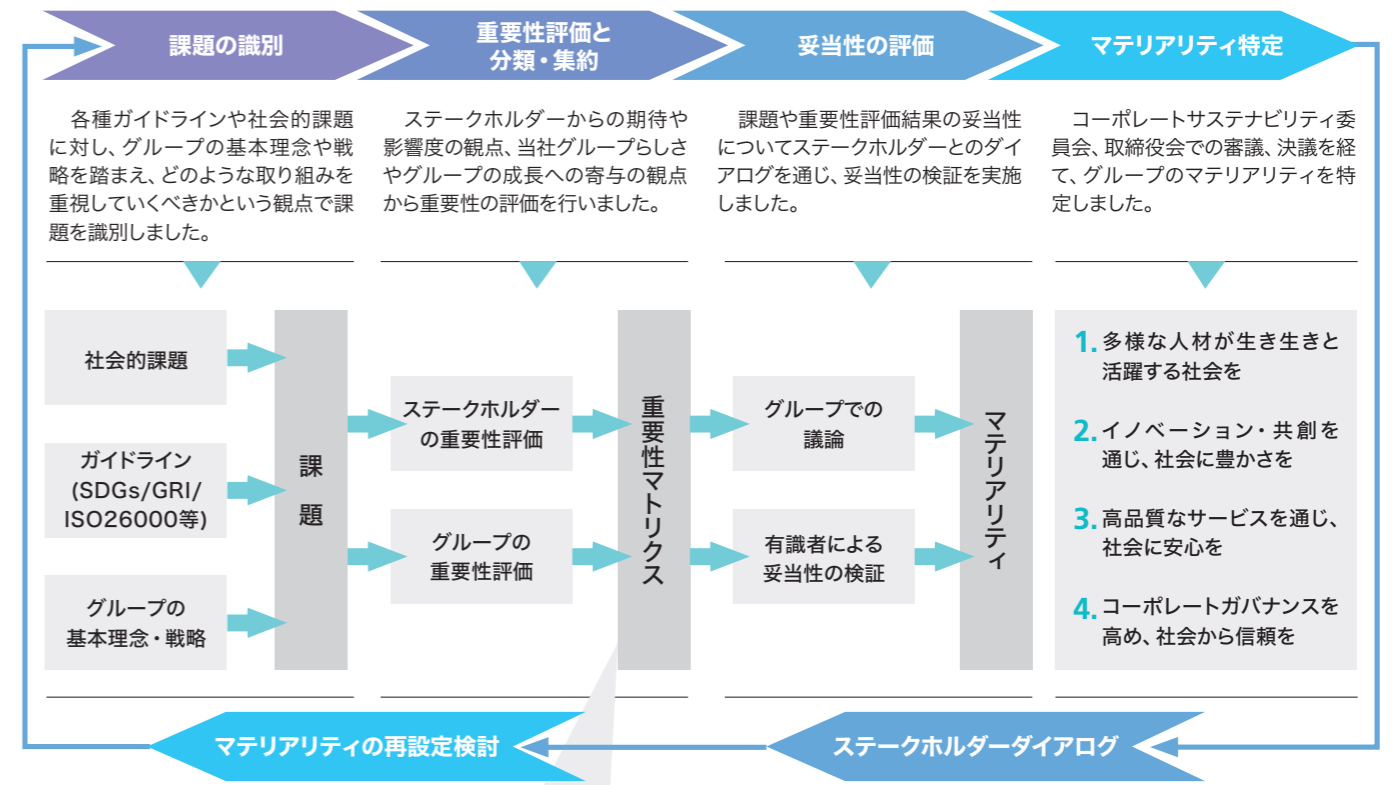
当社グループはマテリアリティ（重要課題）への取り組みを進め、企業活動および事業活動を通じた社会課題の解決を果たしていくとともに、関連するSDGsの目標達成にも貢献していきます。



マテリアリティに関する取り組み概要については、下記をご参照ください。

<https://www.tis.co.jp/group/sustainability/materiality/>

## ■ マテリアリティ特定プロセス



## ■ 持続可能な開発目標 (SDGs)

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。その達成に向けて企業は重要なパートナーとして、それぞれの中核的な事業を通じた貢献が期待されています。



# ステークホルダーダイアログ

当社グループでは、ステークホルダーとの対話は重要な機会であると位置づけ、外部有識者と当社マネジメント層によるダイアログを定期的に開催しています。当社グループの取り組みを発信するとともに、それぞれの立場から寄せられた客観的なご意見や新たな気づき等を企業活動に反映し、より質の高い取り組みにつなげる善循環を目指します。

## ■ ステークホルダーダイアログの実施概要



テーマ：サステナビリティ活動の進捗 日時：2022年6月16日(木)

出席者：【社外有識者】岸上 有沙氏 (ESGスペシャリスト)

【TIS株式会社】河村 正和 (執行役員 企画本部長/コーポレートサステナビリティ推進責任者)

岡 玲子 (執行役員 企画本部副本部長兼企画部長)

岸上氏 プロフィール

2007年よりFTSE Russell社に勤務し、2015年よりアジア環太平洋地域のESG責任者として、同域内でのESGを考慮した企業・投資行動促進に携わった。2019年4月より独立し、サステナブルな社会に向けた投資と事業活動が好循環する社会の確立を目指す活動に従事している。



本ダイアログでは、中期経営計画(2021-2023)のKPIの一つに採用した「社会課題解決型サービス事業」をはじめとして「人材活用」「多様性」「安心な製品の提供」等、当社グループの社会価値創出・社会課題解決を果たすための取り組みとそれをどのように発信してきたのかを説明し、岸上氏から客観的な立場で忌憚のないご意見をいただきました。

ここでは、本ダイアログの中心となった「社会課題解決型サービス事業」に関する内容(一部)についてご紹介します。

※ダイアログ全体の要旨については下記をご参照ください。

<https://www.tis.co.jp/group/sustainability/stakeholder/dialogue2022/index.html>

**岸上氏**：ITを駆使してキャッシュレス化を促進する事業に積極的に取り組まれ、これによって新たに金融システムにアクセスできる層を増やしているということ、社会課題解決として位置付けられています。そのような面がある一方で、意図せずに携帯電話を通じて子どもがアクセスすることや、フィナンシャル・リテラシーが脆弱な消費者が限度を超えて簡単に利用してしまうなどの負の影響・弊害も考えられます。そのような消費者視点でのリスクについても開示が充実できると良いと感じましたし、さらに金融リテラシーを高めるような活動も並行して進めるべきと思います。

**河村**：例えば不正に決済されないような取り組みは非常に力強く進めています。一方で、利用者・消費者の周辺で発

生する負の影響等、社会全体の視点が不足していたことに気づかされました。また、我々の意図しないサービスの使われ方をしないように目配りする必要もあると感じましたので、我々も幅広く深く考えて情報発信する重要性をこの対話を通じて学びました。

**岡**：サービスを提供する際の課題として、利用者のデジタルリテラシーの有無によって平等に受益できないというところにも課題があると感じました。例えば、サービスを利用するためのパスワードの管理が苦手な方は利用を断念したり、紛失によるリスクを負うことになったりします。私たちにとって当たり前とっていた部分についても見直す必要性を感じました。

## ■ ダイアログを終えて

当社グループの価値は、社会のエコシステム全体を高めることによって協奏的に高めていくことができると確信いたしました。また、良き変化の中にも負の部分が必ずあり、その負の要素を緩和する取り組みの重要性も確認することができました。本ダイアログで獲得した気づきを活かし、今後も、様々なステークホルダーとの価値交換性を高め社会から必要とされる企業グループになるとともに、より多くの人が幸せになる社会を追求してまいります。(TIS株式会社 河村)